



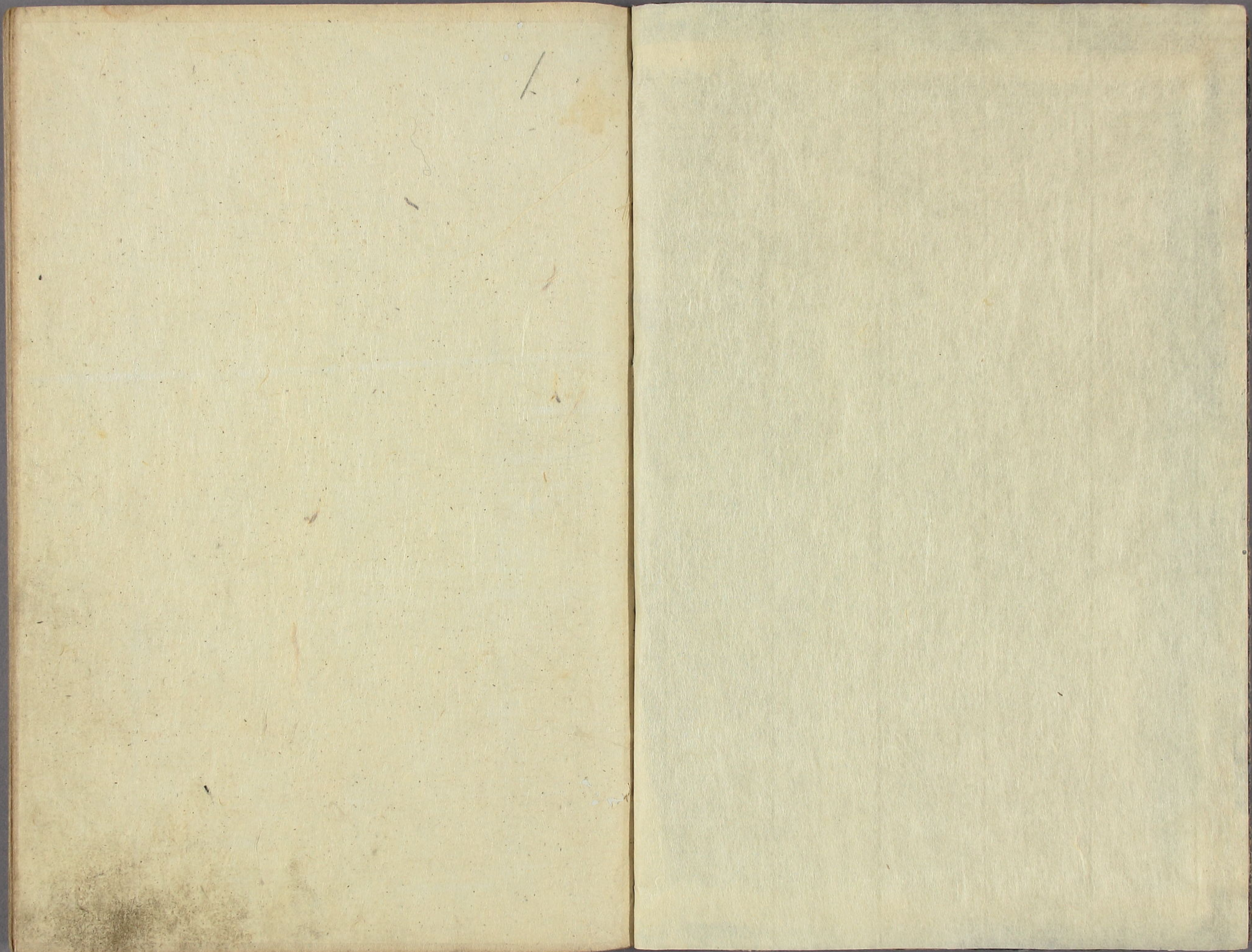
新板
繪入
於
佐
那

源氏物語

一

伊地知文庫
文庫20
397
1





おそれゆるー

きくはが

らくきく

ういせえ

ゆづか

わろしき

そんはし

るすれ

花乃えん

あつひ

きりほが 伊地知氏書冊

へんたのておはつたおきつたおきつたおきつた
 中へんたのておはつたおきつたおきつたおきつた
 へんたのておはつたおきつたおきつたおきつた
 世れんきつたおきつたおきつたおきつた
 あまのておはつたおきつたおきつたおきつた
 何れんきつたおきつたおきつたおきつた
 へんたのておはつたおきつたおきつたおきつた
 へんたのておはつたおきつたおきつたおきつた
 へんたのておはつたおきつたおきつたおきつた
 へんたのておはつたおきつたおきつたおきつた

よはんをわきまをけりうまういこにもかろ事れ
おういほき事なまきしとあしきまうかたけこ
るううううかろのえちちちち大物さうう
て母人いほのまきしとあしきまうかたけこ
かろをけりうまういこにもかろ事れ
はるの事いこちちちちちちちちちちちちちち
みいこまきしとあしきまうかたけこ
右大たれいこちちちちちちちちちちちちちち
いこちちちちちちちちちちちちちちちちちちち
けいこちちちちちちちちちちちちちちちちちちち
わいこちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

かろをけりうまういこにもかろ事れ
おういほき事なまきしとあしきまうかたけこ
るううううかろのえちちちち大物さうう
て母人いほのまきしとあしきまうかたけこ
かろをけりうまういこにもかろ事れ
はるの事いこちちちちちちちちちちちちちち
みいこまきしとあしきまうかたけこ
右大たれいこちちちちちちちちちちちちちち
いこちちちちちちちちちちちちちちちちちちち
けいこちちちちちちちちちちちちちちちちちちち
わいこちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

Handwritten text in Arabic script, top line of the right page.

Main body of handwritten text in Arabic script on the right page.

Handwritten text in Arabic script, top line of the left page.

Main body of handwritten text in Arabic script on the left page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 15 lines of text, starting with a large initial letter 'D' and ending with a small flourish.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 10 lines of text, starting with a large initial letter 'D' and ending with a small flourish.

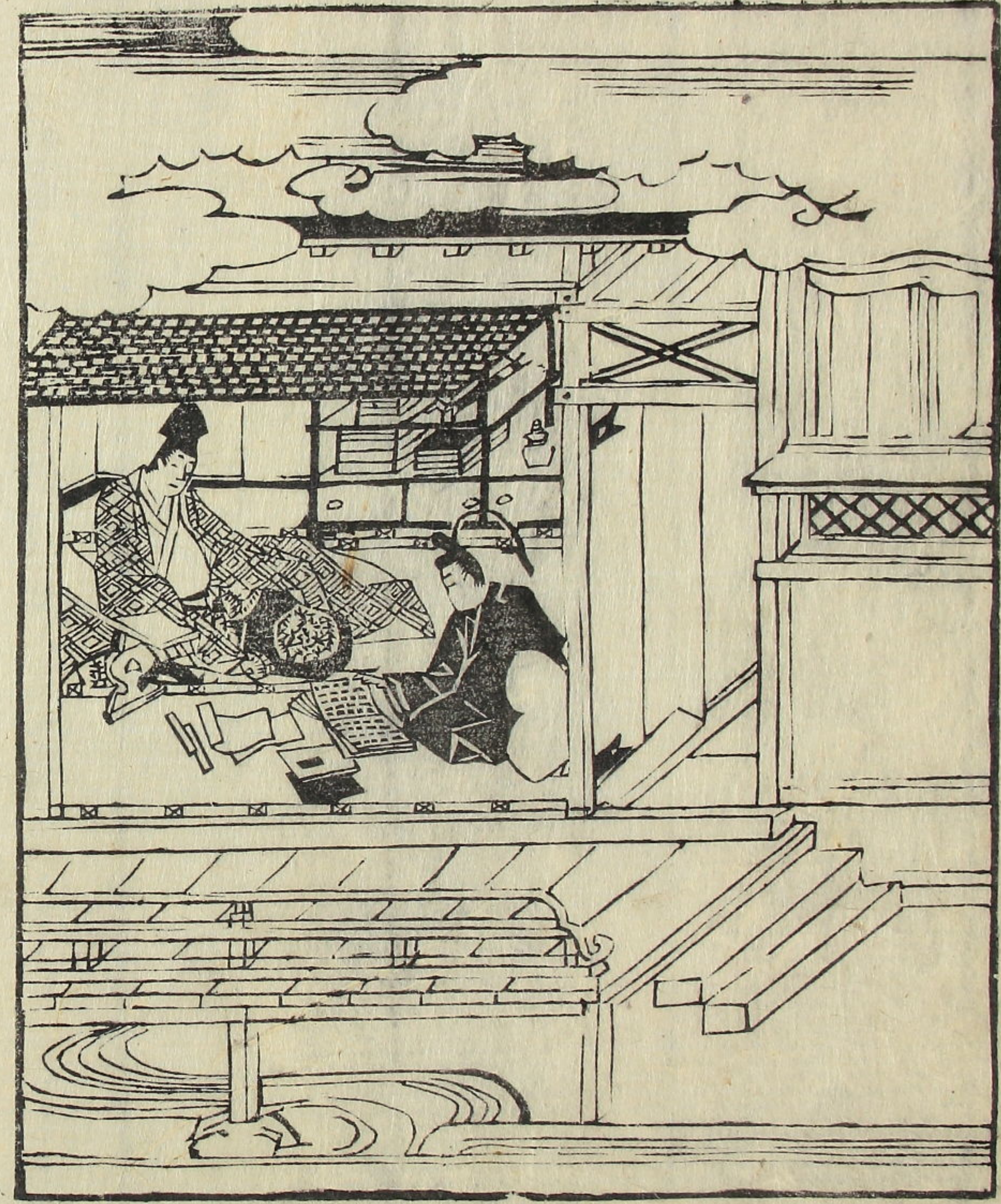
Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of a story or poem. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. The characters are fluid and connected, characteristic of the 'sōsho' style used in Edo-period manuscripts.



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 12 lines of text, starting with a large initial letter. The script is highly stylized and characteristic of the early modern period.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. It consists of approximately 12 lines of text. The script is highly stylized and characteristic of the early modern period. There is a small, illegible mark or signature in the middle of the text.

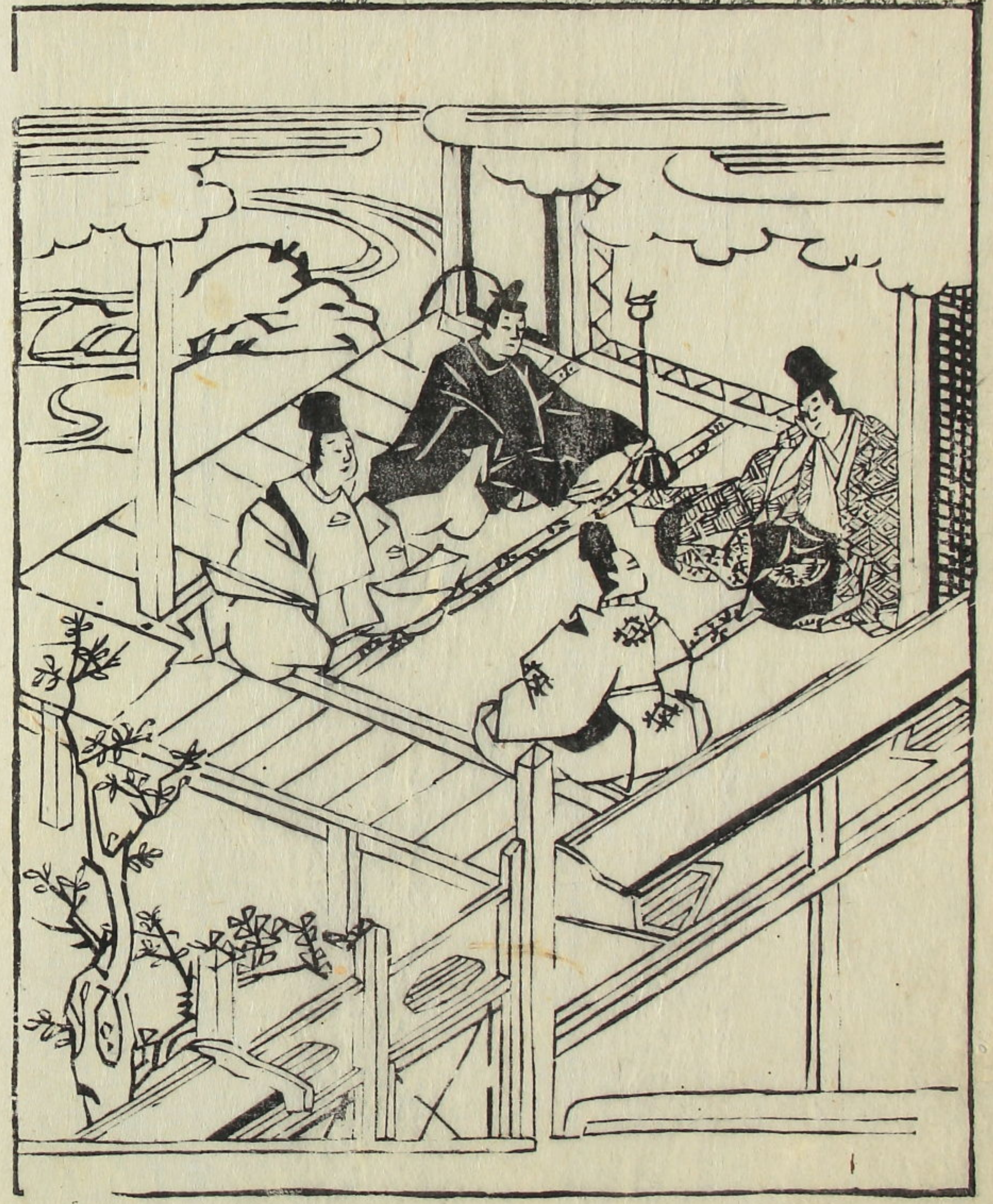
Handwritten text in a cursive script, likely Arabic or Persian, spanning the entire page.



Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account. The text is written in a single column on the left page of the manuscript.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account. The text is written in a single column on the right page of the manuscript.

27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100



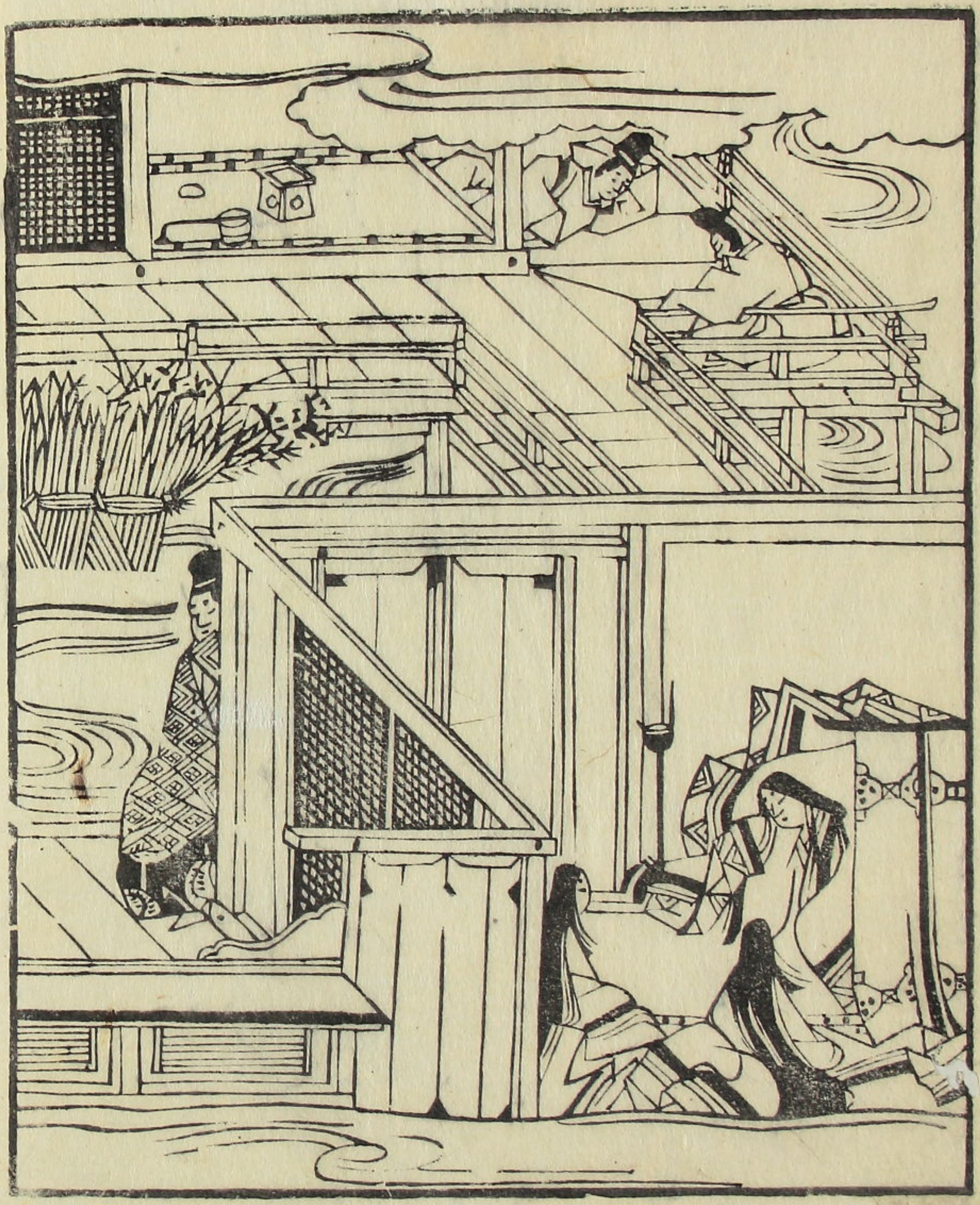


中
 月夜の静けさ
 旅人の足音
 響く山道
 遠くを
 歩む
 旅人の
 影が
 伸びる
 月影に
 照らされ
 旅人の
 心は
 静かに
 なる

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 15 lines of text.

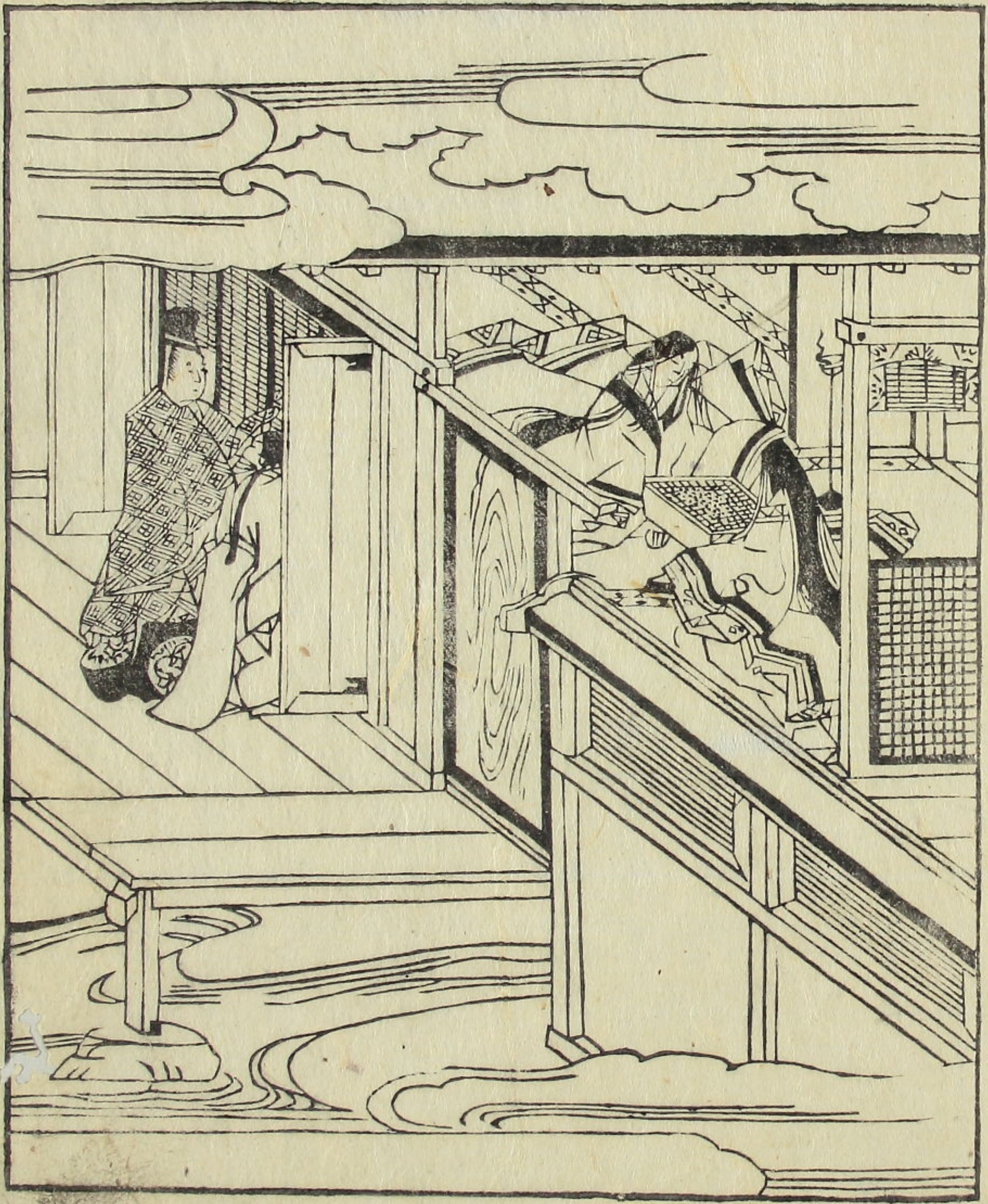


おちりせきも申おしらむらにさしゆくはこゝろ
わらうらふまはたつちあつちひかたもすたを
まいりしあつちひくしむしをすたを
ていよかたひりらるるのちのちのちのち
まのちのちのちのちのちのちのちのち
らまのちのちのちのちのちのちのち
をらりあつちひかたもすたを
かともすたひいよかたひいよかたひいよかたひ
おちりせきも申おしらむらにさしゆくはこゝろ
わらうらふまはたつちあつちひかたもすたを
まいりしあつちひくしむしをすたを
ていよかたひりらるるのちのちのちのち
まのちのちのちのちのちのちのちのち
らまのちのちのちのちのちのちのち
をらりあつちひかたもすたを
かともすたひいよかたひいよかたひいよかたひ

おちりせきも申おしらむらにさしゆくはこゝろ
わらうらふまはたつちあつちひかたもすたを
まいりしあつちひくしむしをすたを
ていよかたひりらるるのちのちのちのち
まのちのちのちのちのちのちのちのち
らまのちのちのちのちのちのちのち
をらりあつちひかたもすたを
かともすたひいよかたひいよかたひいよかたひ
おちりせきも申おしらむらにさしゆくはこゝろ
わらうらふまはたつちあつちひかたもすたを
まいりしあつちひくしむしをすたを
ていよかたひりらるるのちのちのちのち
まのちのちのちのちのちのちのちのち
らまのちのちのちのちのちのちのち
をらりあつちひかたもすたを
かともすたひいよかたひいよかたひいよかたひ

二ノ下

そは世にきこはるるも
かきしりしきいふも
まのついでにうら
かりし小巻ぐ車に
しゆらりしきこ
はるるも
いふも
かきしりしきい
ふも



2

4

4

クワケ

此の事にはなほさういふ御座りませぬ
 此の中やうに御座りませぬ
 まういしてあつてはなほさういふ
 此れはうらふさういふ
 此れはうらふさういふ
 うらふさういふ
 あつてはなほさういふ
 うらふさういふ
 うらふさういふ
 うらふさういふ



春のあけぼののうららかなる
しづかにのぼる朝の光
しづかにのぼる朝の光
しづかにのぼる朝の光
しづかにのぼる朝の光
しづかにのぼる朝の光
しづかにのぼる朝の光
しづかにのぼる朝の光

あけぼののうららかなる
しづかにのぼる朝の光
しづかにのぼる朝の光
しづかにのぼる朝の光
しづかにのぼる朝の光
しづかにのぼる朝の光
しづかにのぼる朝の光
しづかにのぼる朝の光

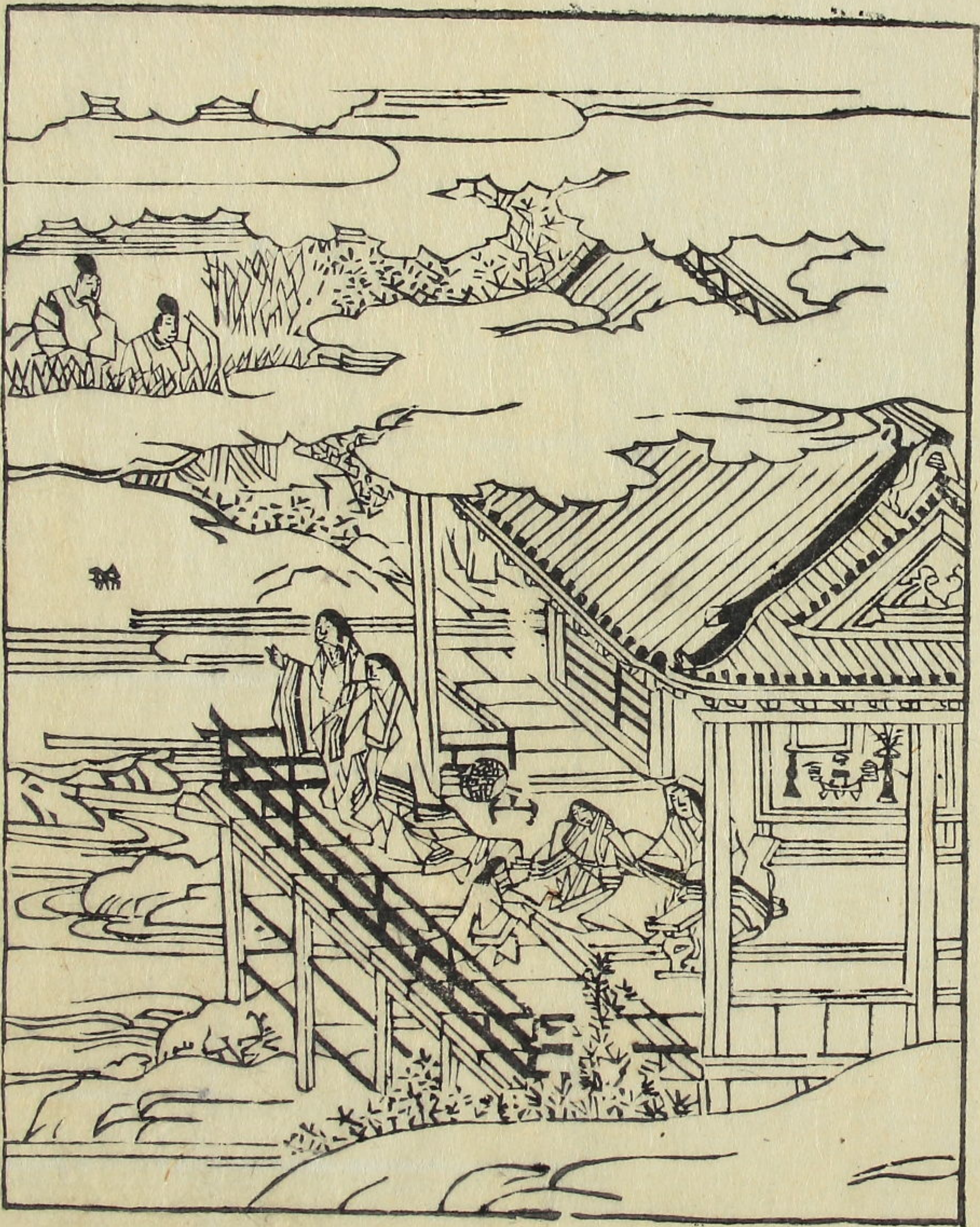
源

あけぼののうららかなる
しづかにのぼる朝の光
しづかにのぼる朝の光
しづかにのぼる朝の光
しづかにのぼる朝の光
しづかにのぼる朝の光
しづかにのぼる朝の光
しづかにのぼる朝の光

あけぼののうららかなる
しづかにのぼる朝の光
しづかにのぼる朝の光
しづかにのぼる朝の光
しづかにのぼる朝の光
しづかにのぼる朝の光
しづかにのぼる朝の光
しづかにのぼる朝の光



柳のたつ源に三葉のついでに
あつて我をこゝろのあつて
かゝるよふおんを馬をこゝろ
らしておんをよもやあつて
よしおんをゆゑのよもやあつて
まゝのついでに三葉のついでに
よもやあつてのよもやあつて
のよもやあつてのよもやあつて
あつてあつてあつてあつて
川のあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて



乃が如くもとおもてに佛すとて軍あまりの
 わかちよきいへばあつあつに人からいふあまの
 中にすまのいふあまのさつにまきても
 といふあまのさつにまきてもいふあまの
 といふあまのさつにまきてもいふあまの

いふあまの
 いふあまの
 いふあまの
 いふあまの
 いふあまの
 いふあまの



の
 といひのねらうがきまはなひ
 まゝのわが花のうらとみまを
 めあゝのひらへん
 たるまのちのふ花のひらへん
 けさにかよものはらそまう
 ちのまゝはなれあさうらへん
 千とひらそりあきさへん
 申しのんこあさへん
 ぐさのひのりへんかろへん
 なおあさしなへん
 井田
 は井田のあさ

うきうきうきうきうきうきうき
 かんかんかんかんかんかんかんかん
 ぱんぱんぱんぱんぱんぱんぱん
 うきうきうきうきうきうき
 うきうきうきうきうきうき
 かんかんかんかんかんかんかんかん
 うきうきうきうきうきうき
 ぱんぱんぱんぱんぱんぱんぱん
 うきうきうきうきうきうき

うきうきうきうきうきうき
 かんかんかんかんかんかんかんかん
 ぱんぱんぱんぱんぱんぱんぱん
 うきうきうきうきうきうき
 うきうきうきうきうきうき
 かんかんかんかんかんかんかんかん
 うきうきうきうきうきうき
 ぱんぱんぱんぱんぱんぱんぱん
 うきうきうきうきうきうき

あまをさのりサのれはうせう、
 東いふらうも、
 ありれいふり、
 あまたらふ、
 うほのちを、
 あまの、
 早のち、
 ねん、
 門、
 類、
 の

田

たら

の

娘

と

車

手

表

係

係

か

いふまゝに書かす

下巻のついで

散りてはまの山にちかぢかぢかしてあまの
たゆみのやうな縁にからしてまの山に
しるしをいかにしるしをいかにしるしを
いかにしるしをいかにしるしをいかに
いかにしるしをいかにしるしをいかに

^{みま}いかにしるしをいかにしるしをいかに

^保いかにしるしをいかにしるしをいかに

いかにしるしをいかにしるしをいかに

いかにしるしをいかにしるしをいかに

いかにしるしをいかにしるしをいかに

いかにしるしをいかにしるしをいかに

いかにしるしをいかにしるしをいかに

いかにしるしをいかにしるしをいかに

いかにしるしをいかにしるしをいかに

いかにしるしをいかにしるしをいかに

いかにしるしをいかにしるしをいかに

いかにしるしをいかにしるしをいかに

いかにしるしをいかにしるしをいかに

いかにしるしをいかにしるしをいかに



わさゆれにさかすかすきりてちのり
 ちうしんりるるるるるるるるる
 すぐはしんを神くしきせん
 くれさるれひと花ありまうすく
 ひさするるるるるるるるるるる
又のあまの妙なるるるるるるるる
 かさねるるるるるるるるるるる
 けあにれゆるるるるるるるるる
 ちのりかすかすかすかすかすか
 られるるるるるるるるるるるる
 ひちれるるるるるるるるるるる



多うられお入 源七も十八也
 まじりてあんなうけきまの月十七日あり
 せんべいごくとかきまをゆるく源氏と名をわめ
 せいじつにちかやうとよまじりてあつむり
 きりけいこの日添りてあつむりこのゆくり
 物ありてよたらちんぐれとあつむりなり
 神よりゆるくゆるくゆるくゆるく
 かりん乃神よりゆるくゆるくゆるく
 たらちのゆるくゆるくゆるくゆるく

約きまの日のとらふらふら世おつ人
 ちかかくのねとかがりあまねのびよ平
 人乃かいらうねのねよまをせうせふ
 かやまのちうしんがねのちうしん
 切してりうんちうちうちうちうち
 らせねのちうちうちうちうちうち
 乃せねのちうちうちうちうちうち
 とげー又ちうちうちうちうちうち
 わまのちうちうちうちうちうち



うんちんてんのていりかたがもあつたまは
 びんびんていあつていふていふていふ
 いふていふていふていふていふ
 たらうていふていふていふていふ
 ていふていふていふていふていふ
 人ていふていふていふていふていふ
 ちんちんていふていふていふていふ
 入ていふていふていふていふていふ
 たていふていふていふていふていふ



かゝるいふ事にはおぼつかずしるす
癖もあつてはしるすもたゞし中納乃
おのゝおのゝおのゝおのゝ

はしるすもたゞし中納乃
おのゝおのゝおのゝおのゝ

おのゝおのゝおのゝおのゝ

おのゝおのゝおのゝおのゝ

おのゝおのゝおのゝおのゝ

源

おのゝおのゝおのゝおのゝ

おのゝおのゝおのゝおのゝ

おのゝおのゝおのゝおのゝ

おのゝ

おのゝおのゝおのゝおのゝ

おのゝおのゝおのゝおのゝ

おのゝおのゝおのゝおのゝ

おのゝおのゝおのゝおのゝ

おのゝおのゝおのゝおのゝ

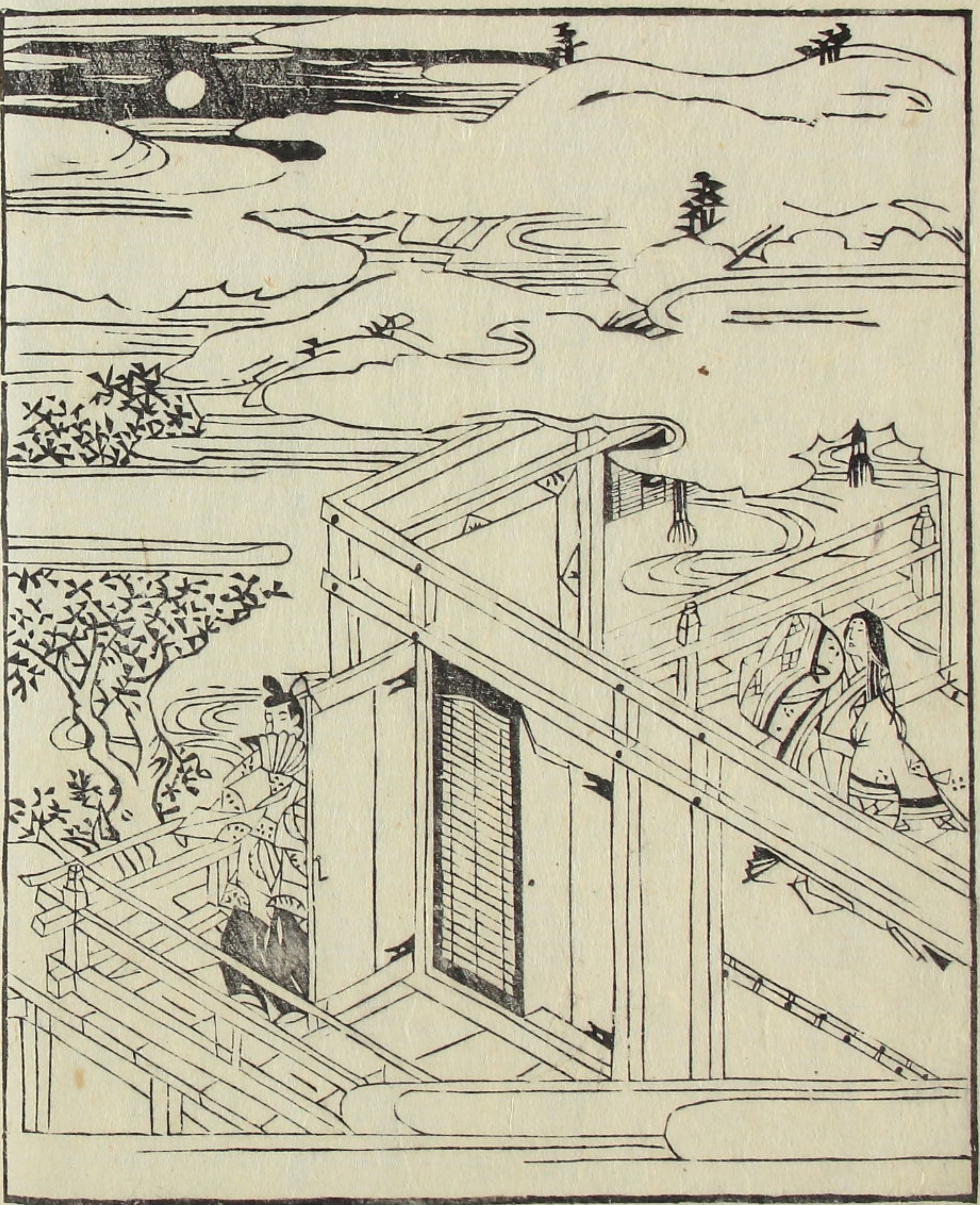
はなをばらけしむるやみりくを
もみりくをばらけしむるやみりく

花乃をらん 源十のち

きりくはみりくあすうなんごんの櫻れ舞せ
せうし申文をきき文うりてごんの中をきりく
源氏をばらけしむるやみりくをばらけしむるや
もみりくをばらけしむるやみりくをばらけしむるや
大なるに花のすくすくをばらけしむるや
あももらうをばらけしむるや
かみりくをばらけしむるやみりくをばらけしむるや

はなをばらけしむるやみりくをばらけしむるや
もみりくをばらけしむるやみりくをばらけしむるや
かみりくをばらけしむるやみりくをばらけしむるや
あももらうをばらけしむるや
せうし申文をきき文うりてごんの中をきりく
源氏をばらけしむるやみりくをばらけしむるや
もみりくをばらけしむるやみりくをばらけしむるや
大なるに花のすくすくをばらけしむるや
あももらうをばらけしむるや
かみりくをばらけしむるやみりくをばらけしむるや

しのびをいふはれはるるはつらん
 こぼろはほろよけもいかに
 りをいさつてを解らうとさう
 うそ物もは解らうとさう
 うそ物もは解らうとさう
 月の中をいさつてを解らうとさう
 月の中をいさつてを解らうとさう
 月の中をいさつてを解らうとさう
 月の中をいさつてを解らうとさう
 月の中をいさつてを解らうとさう





おとせのあけはつひらきし
かたせきとけりそとほりて
はなはた

はなはた

はなはたはなはたはなはた
はなはた

はなはたはなはたはなはた
はなはた

はなはた

はなはたはなはたはなはた
はなはた

はなはたはなはたはなはた
はなはた

あまのついでにさかすかすのしるし

いづれかたのこころのこころのこころ

あまのついでにさかすかすのしるし

あまのついでにさかすかすのしるし

あまのついでにさかすかすのしるし

あまのついでにさかすかすのしるし

あまのついでにさかすかすのしるし

あまのついでにさかすかすのしるし

あまのついでにさかすかすのしるし

あまのついでにさかすかすのしるし

あまのついでにさかすかすのしるし

あまのついでにさかすかすのしるし

あまのついでにさかすかすのしるし

あまのついでにさかすかすのしるし

あまのついでにさかすかすのしるし

あまのついでにさかすかすのしるし

あまのついでにさかすかすのしるし

あまのついでにさかすかすのしるし

あまのついでにさかすかすのしるし

あまのついでにさかすかすのしるし

あまのついでにさかすかすのしるし

あまのついでにさかすかすのしるし

あまのついでにさかすかすのしるし

あまのついでにさかすかすのしるし

いゝんあーかきくくく

わふれ申を大なる海に

あつたれ申にのりし

たまり
れ
れ
れ
れ
れ
れ
れ

いゝんあーかきくく

原
く
く
く
く
く
く
く

わふれ申を大なる海に

あつたれ申にのりし

たまり
れ
れ
れ
れ
れ
れ
れ

いゝんあーかきくく

わふれ申を大なる海に

あつたれ申にのりし

たまり
れ
れ
れ
れ
れ
れ
れ

いゝんあーかきくく

わふれ申を大なる海に

あつたれ申にのりし

たまり
れ
れ
れ
れ
れ
れ
れ

いゝんあーかきくく

わふれ申を大なる海に

あつたれ申にのりし

たまり
れ
れ
れ
れ
れ
れ
れ

係

年々よき年々
きよき年々
よき年々
か納言いあらぬか
多ク年々
それらうちの
年々

あまの
まじり
あまの
よき年々

